

# 第11回「日本語大賞」

テーマ「美しい日本語」

高校生の部 優秀賞 受賞作品

## 「忠恕という美しき日本語」

イタリア

ミラノインターナショナルスクール

2年 室賀 悠佑

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

皆さんは、「忠恕」という言葉を知っているだろうか。おそらく、この作文を読んでいる、多くの人は馴染みのない言葉だろう。

忠恕とは、自分の良心に忠実であることと、他人に対して思いやりの深いこと。忠実で同情心に富むこと(精選版 日本国語大辞典 小学館)。また、孔子の唱えた儒教における二つ目の徳目でもある。この言葉を皆さんには、美しい日本語として紹介をしたいと思う。

私は、「忠恕」という言葉を本で知った。池上彰氏と元侍従長、渡邊充氏の当時の天皇陛下に関する対談をまとめた本だ。その対談で渡邊氏は陛下の好きな言葉として「忠恕」を紹介なさっていた。陛下は、平成の三十一年間、この災害の多い日本で常に被害者に寄り添われてきたと思う。東日本大震災の時も、陛下が避難所でお見舞いをなさっているのを覚えている人も多いだろう。「忠恕」は、陛下の人に寄り添う心を一番表した日本語だと私は思う。日本が世界に誇れるおもてなしの心も「忠恕」の考えが取り込まれている一つの例だろう。

東京オリンピック招致の時も滝川クリステル氏のおもてなしのスピーチが招致成功の一つの要因となったことは記憶に新しい。相手のことを一番に考えそして、相手に適したサービスを提供する。まさに、「忠恕」の考えが生かされた行動だ。忠恕は、美しき心を表す美しい日本語の一つに僕には感じられる。

当然だが、美しい言葉をただ美しい言葉だと感じるだけでは意味がない。その言葉を深く読み取り、実践することが次のステップとして重要なのだと思う。一般的に知られていない「忠恕」だが、日常生活では実践されている機会が多分にあると思う。人の手助けをするのは「忠恕」の考えを实践している立派な一つの例だろう。親のお手伝いやボランティア活動、寄付も「忠恕」の考えを实践している例になると思う。

以上のことを考えれば、忠恕の考えは日常生活に根付いているのではないだろうか。そして、「忠恕」は我々の生活をよりよくしていく考えの一つでもあると思う。誰だって良心から起こした行動は感謝されるし、役立てられる場合がほとんどだろう。嫌な思いをする人はほとんどいないはずだ。そして皆、気持ちりがほんわかするだろう。

ただ、今日の日本人が皆、「忠恕」の考えに沿って行動できているわけではないと思う。残念なことだが、この考えに明らかに逸れている人も少なからずいるのではないだろうか。

例えば近年、マナーの低下が叫ばれて久しい。電車に乗ると車内で携帯電話を使って話している人、荷物で席を占有している人など、マナーを守れていない人を多々見かける。また、在日韓国・朝鮮人に対するヘイトスピーチも、「忠恕」の考えから逸れてしまっている行為の一例だろう。特定の民族を排斥また、殊更に誹謗中傷を公然と行うのは、自分の良心に忠実な者が為す行動とはとても思えない。

このように、「忠恕」の考えから逸れた社会の歪みとも言うべき事態が噴出しているのが今日の日本の実像だと思う。このような今だからこそ、「忠恕」の考え、言葉の意味を熟考してみるのはどうだろうか。きっと新しい、今までとは違う視点が得られるはずである。「忠恕」という言葉を知り、少しでもその考えが生活により一層役立てられれば私は喜ばしく思う。